第15回
連携医療機関のご紹介
日頃からお世話になっている地域の医療機関をご紹介致します。

松藤整形外科

住　所：雲仙市小浜町北本町35番地
院長　松藤　靖　　電　話：0957-74-2006

当院は2010年4月に松藤医院を継承し、整形外科クリニックとして開院しました。
各医療機関には、現在に至りたいへんお世話になっております。
『細やかで丁寧な診察』を心がけ、患者様の生活環境に合わせた症状の改善に努めています。院内はユニバーサルデザインを採用し、毎日念入りな清掃を行い快適な空間を保っています。



主に関節症、脊椎疾患、骨粗鬆症、外傷の保存治療、そして外傷腱縫合等創傷治療、陥入爪手術、皮膚皮下腫瘍切除等の小手術を行っています。
熱傷治療には、勤務医時代に学んだ形成外科的アプローチを取り入れ、家伝の知識を活かしています。

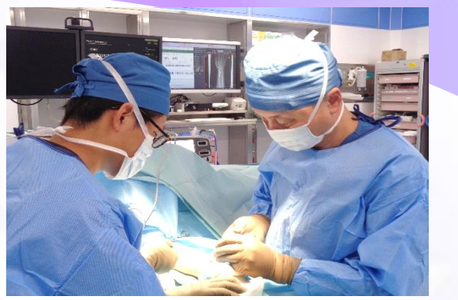
小範囲であれば比較的深い熱傷にも対応し、機能的・審美的な改善を目指します。
巷で有名だった“まっ黒になるやけどの薬”は、現在お蔵入りとなっています。
より精密な検査、治療および入院が必要な症例は各医療機関の先生方にお願いしております。
これからも、患者様の疼痛緩和、機能改善、健康寿命の延伸に努めてまいります。

ジャカランダ　2025年6月VOL.32
発行：公立小浜温泉病院
〒854-0593長崎県雲仙市小浜町マリーナ3番地2　TEL：0957-74-2215（総務課）FAX：0957-74-2526

医療法人社団 苑田会 公立小浜温泉病院
2025年6月発行
Vol.32

ジャカランダ





今年の4月から当院の医局長に就任！
田中　優砂光　整形外科医
本誌2023年6月号にて「手術部」の再編成を
当号では「手術部」の現状と展望について
聞きました。

「求められていることをやる」

ほとんどが整形外科手術である当院手術部ですが、2名の整形外科医と4名の手術部スタッフで2024年度は計282件の手術を行いました。
「やりたいこと・できることをやる」のではなく「求められていることをやる」という理念を貫いた結果です。エコー・関節鏡・顕微鏡という整形外科の三種の神器を駆使し、効果と安全性の点でようやく完成の域に到達しつつある神経ブロック等の自家麻酔手技と相まって、これからも可及的に地域完結型の治療を継続できるよう一同尽力して参ります。
学術活動も積極的に行っております。2024年7月の「日本骨・感染症学会」は閉鎖性持続灌流装置を用いた細菌感染症の治療に関する発表を、同年12月の「日本膝関節学会」では脛骨近位骨切り術（ＯＷＤＴＯ）に関する発表を行い、いずれも論文化を終え掲載済です。
今後も活動を積極的に行い、より学術的価値の高い手術及び麻酔の遂行を目指します。

「人材育成」を最優先課題として取り組み、持続可能な組織へ

目下の課題は、マンパワーの不足です。手術部スタッフは外来と兼務の中で本当にやってくれていますが、整形外科医自身と同様にそろそろ高齢化が課題となりつつあります。
最も重要な未来への投資である「人材育成」を最優先課題として取り組み、持続可能な組織へと作り込んでいく必要があります。
アフター・コロナの茨の道を、これまでどおりの低侵襲医療で乗り切ることは相当の困難を伴います。しかし、我々はこれからも末永く地域に必要とされる整形外科及び手術部を目指して参ります。
今後ともご指導ご協力の程賜りますよう心よりお願い申し上げます。

整形外科医　田中　優砂光

INDEX

01 「手術部」の現状と展望について　整形外科医　田中　優砂光
02 リハビリテーション科　PT小森陽介さんインタビュー
03 NEWS　令和7年度新人職員紹介
04 連携医療機関のご紹介　松藤整形外科　院長　松藤　靖

Specialist

第1回目は、東京苑田会人工関節センター病院　リハビリテーション科から異動して約3年経った小森　陽介主任にインタビューしました。

Q：東京の苑田会人工関節センター病院で勤務されていたとのことですが、長崎から東京に行かれた経緯を教えてください。

理学療法士免許取得後、長崎市の整形外科クリニックで6年間勤務をしていました。沢山の患者さんにリハビリテーション（以下、リハビリ）をさせていただくうちに、「整形外科手術後のリハビリ知識が足りない」と感じ始め、一念発起し、全国トップクラスの手術件数を誇る病院に移ろうと思い、長崎から東京に行った次第であります。

Q：東京で経験したことや活動してきたことを教えてください。

東京入職1年目は新婚生活・初めての東京生活・人工関節手術件数全国1位の病院での勤務、ということで正直にお話しますとパニック状態であまり記憶がなく……ただ我武者羅に学ぼう・沢山のことを経験しようとしていたと思います。その我武者羅さが功を奏したかわかりませんが、先輩後輩同僚・患者さんにも恵まれたこともあり、仕事・私生活に余裕が出てきた2年目に入ったあたりから、いろんな分野の仕事をいただけるようになりました。

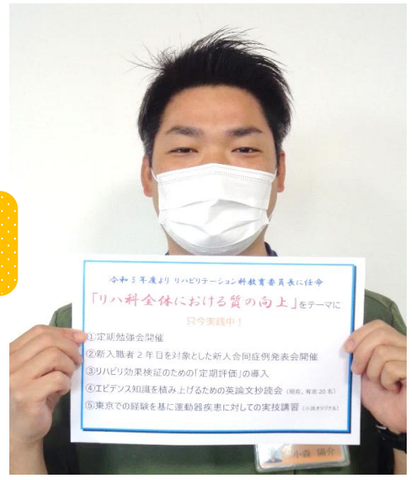
主な内容として、人工膝・股関節術後における入院・外来リハビリ、診察室に帯同し医師の診療補助、人工関節だけでなく一般整形からトップアスリートへのアスレティックリハビリ、院外理学療法士向け研修会講師、エビデンス知識を積み上げるための英論文抄読会、科学的根拠に基づく医療を提供するための研究活動、など7年間で沢山のことを学び・経験させていただきました。



Q：約3年前から当院での勤務となりましたが、東京での経験を基に実践していることはありますか。

昨年度よりリハビリ科教育委員長に任命され、上司から「勉強の方法はどうすればいいか」「モチベーションを保つこと」など、現代社会において問題になっていることが当院リハビリ科としても現在の課題とお聴きし、「リハ科全体における質の向上」をテーマに少しずつですが新たな取り組みを始めました。取り組み内容として、

①各分野の専門性に特化した先輩セラピストが担当する定期勉強会開催（月1回）
②新入職者2年目を対象とした新人合同症例発表会開催
③リハビリ効果検証のための「定期評価」の導入
④エビデンス知識を積み上げるための英論文抄読会
（研究チーム8名から発足、現在は有志20名に拡大中）
⑤運動器疾患に対しての実技講習など東京での経験を基にですが、小浜オリジナルに変えて実践しております。



リハビリテーション科
理学療法士　小森　陽介　主任



Q：2023年4月より整形外科医の伊藤医師が赴任し、人工膝関節・人工股関節の手術が当院でも始まりました。

まさか小浜で人工関節のリハビリをするとは思っていませんでした。当時は人工関節手術後早期のリハビリを経験したリハビリスタッフはごくわずかであったため、「人工関節セミナー」を開講し、人工関節術後リハビリの概要、実技練習、業者様に依頼して模型での手術手技の説明を行いました。現在では、多数のリハビリスタッフが経験し、安定した治療成績を収めることができていると思います。

Q：今後の当院として、リハビリテーション科として展望がありましたら教えてください。

地域の中核病院であるために安心して来院できる病院、近隣住民に寄り添える病院、選ばれる病院、地域に根差した病院になっていかないと思っております。先進技術を駆使しつつも小浜町の特色を活かしたリハビリを展開していきたいと考えております。

NEWS

令和7年　新入職員紹介

①氏名 ②職種 ③趣味・特技 ④抱負

①吉田　龍市
②薬剤師
③アニメ・YouTube
④患者さんに信頼されるような薬剤師になるため、一生懸命頑張ります。



①末田　駿太郎
②看護師
③バレー・野球など体を動かすことが好きです。
④患者さんやスタッフに信頼される職員になれるよう頑張ります。



①脊川　愛菜
②看護師
③ソフトテニス
④患者さん一人ひとりに寄り添うことができる看護師になりたいです。



①酒井　美空
②看護師
③ドライブ
④笑顔溢れる看護師を目指します。



①中村　渚沙
②看護師
③韓ドラを見ること
④笑顔を忘れず患者さんの思いに寄り添える看護師になりたいです。



①白武　拓晃
②作業療法士
③野球観戦・マラソン・スイーツ巡り
④毎日学ぶ姿勢を忘れずに笑顔と安心を届けられるOTになります。



①伊藤　龍聖
②理学療法士
③サッカー・釣り
④早く業務を覚えて病院と患者さんに貢献できるようなPTになります。



①三雲　太陽
②理学療法士
③映画鑑賞
④誰にでも信頼されるPTになれるように頑張りたいです。



①井上　まい
②医療事務課
③お菓子づくり
④笑顔で丁寧な対応を心がけて頑張ります。

